



コンクリート打放しとガラスカーテンウォールの人工的なファサード。



ウッドデッキとターコイズグリーンガラスの回廊が美しく調和した中庭。





城西の丘からの眺め。壁面をスクリーンに利用して星空上映会も行った。

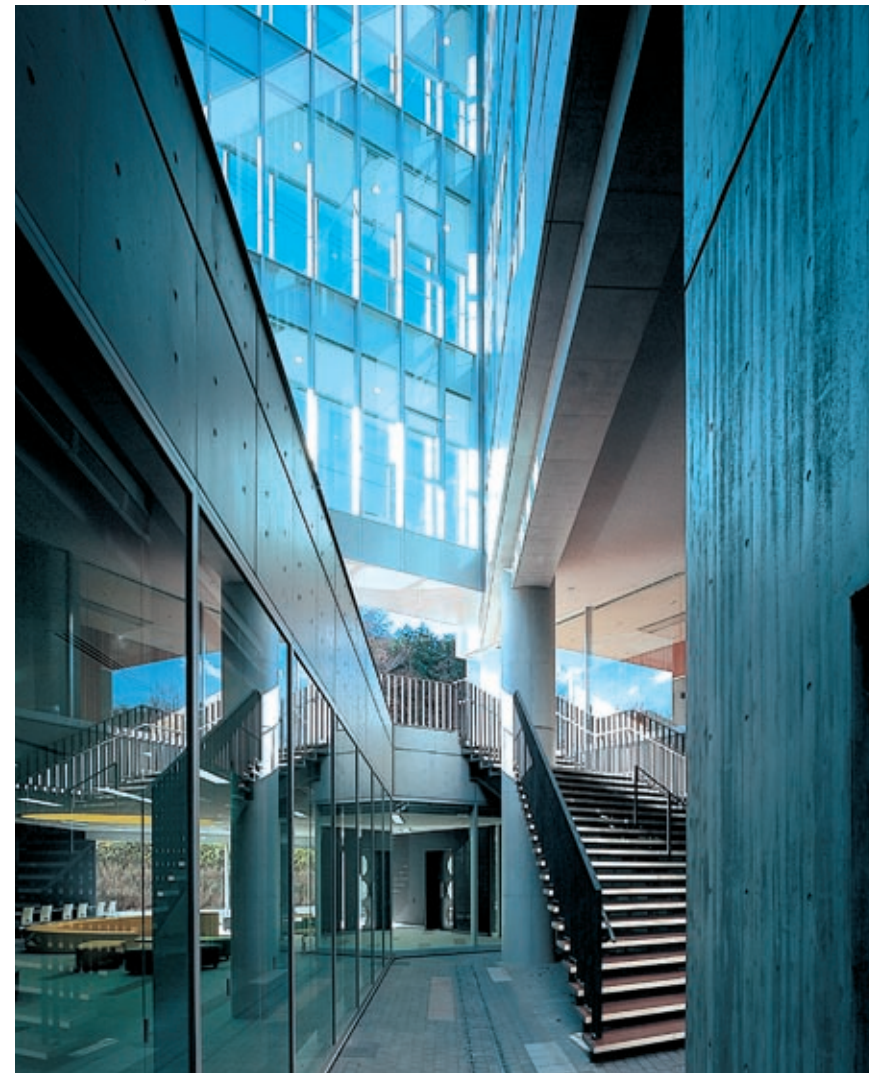
城西大学は、2004年4月に経営学部マネジメント総合学科を開設。2005年に創立40周年を迎えたのを機に、城西のシンボルとして新しい経営学部棟を建立した。設計はアメリカ人建築家、スニール・ボールド氏とヨランダ・ダニエル氏によるものだ。城西大学は埼玉県坂戸市の小高い丘の上に位置し、眼下には美しい高麗川の流れを臨める。この豊かな自然環境の中で、氏が得たインスピレーションは“stream”。これをコンセプトに、吹抜けの中庭を城西の丘へつなげ、自然と融合しつつ、小川の流れるように、空間に新しい空気や人の流れを作り出した。

1～2Fには講堂、メディアエリア、カフェ、3～5Fには教室、セミナー室、研究室を備える。講堂1、2はそれぞれ367名、252名を収容。2つの講堂と東京紀尾井町キャンパス、千葉県東金市にある姉妹校の城西国際大学との遠隔授業も可能で、パソコン利用にも対応し、電源コンセントと無線LANを設置した。プレゼンテーションルームは、オープンキャンパスや様々な式典などに使用できる多目的スペースだ。メディアエリアは無線LANが設置され、学生がノートパソコンを使える自習スペース。定型の四角い机と椅子でかきこまるのではなく、曲線を生かしたフ

ォルムの椅子が印象的だ。

創立者水田三喜男の「学問による人間形成」という建学の理念から、学座である通常の授業のみならず、実学も重視する。産官学の連携に力をいれるのもそのために、経営学部と坂戸市が

1Fは柱のみ残り、5階まで吹抜けとしたピロティ。



連携して月1のペースでイベントを開催、経営学部棟が会場として活用されることも多い。というのも、吹き抜けという一見贅沢な空間が、イベント時には俄然生きてくるのである。たとえば昨年、経営学部棟が国際交流フェスティバルの会場になった。各国大使や地域住民、坂戸市役所、学生が参加し、中庭のカフェテラスでは立食パーティー、1Fの屋外スペースでは、お神輿やお囃子、よさこい踊りを披露し、メディアでも取り上げられた。経営学部棟が情報発信の基点となり、交流・地域活性化の拠点になっていることがわかる。

草野 素雄経営学部長も、「新校舎が学生たちに元気をもらし、前向きに誇りを持って勉強し、社会に巣立っていくことが願いだ」と期待は大きい。



自由な発想が浮かびそうな自習スペース「メディアエリア」。楕円のトップライトからは明るい自然光が降り注ぐ。



城西の丘の緑の中で寛げるカフェテリアは人気のスポット。



落ち着いた色調の木質壁材とクッション性の高い椅子が高級感漂う講堂。



外光が明るいガラスの回廊と教室(左)。丸窓の開いたドアは授業の様子がよくわかる。